

令和2年度 九文調理師専門学校自己評価（年度末）

学校教育基本方針 (教育理念)	近代的調理師が持たねばならない高度な調理技術と調理理論に関する深遠な科学的考察を醸成し、専門職にふさわしい強い意志と豊かな情操を養い、調理的立場から、将来にわたって、地域・社会に貢献できる人間教育を目指す
学校教育目標	1 自主・自律を重んじ、積極的に意欲ある学生の育成 2 地域・社会に貢献できる専門性の高い調理師の養成
重点努力目標	1 何事にも積極的に取り組む行動力の定着 2 質の高い調理師としての専門的な知識と技術の習得 3 就職試験に対応できる自己表現力の育成 4 調理師に付随した科目（トータルコーディネート等）による資格取得

評価基準 4：十分達成している 3：達成している 2：あまり達成されていない 1：ほとんど達成されていない
評価年度末（ ）内は昨年度比

評価項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	年度末	
教育課程・学習指導	専門教科やその他の科目を効果的に取り入れ「基礎力」を育成する。	専門科目とその他の教科をバランスよく配分し、「基礎力」の育成に努める。	3. 6	3. 5 (-0. 1)	2年次も1年次の内容を入れるなど、工夫を行い実践的な実習を実施している。
	即戦力となるような職業教育カリキュラムを編成する。	校内の実習・演習系の科目をなるべく多く配し、就職先となる企業等の職場に類似した状況で学習できるように努める。	3. 7	3. 5 (-0. 1)	高度調理技術・フードサービス(学生レストラン)・集団給食・製菓など実習を数多く取り入れ、スピード感を重視するなど現場に類似した状況で実施している。新型コロナの影響で学生レストランの中止など支障が出たが、学生数が少ないため、コロナ対策を徹底して、ほぼ予定通り実習等実施できた。
		総合調理実習の接客サービス・茶道等の科目を配し、情操面など人間的な「基礎力」を高めるための学習に努める。	3. 7	3. 5 (-0. 1)	ホスピタリティ概論や接客作法に加え学生レストランでの接客等を通して、もてなしの心などの育成を行っている。茶懐石マナーはコロナの影響で中止した。
	指導方法の工夫や企業等の人材を活用し実践的な「基礎力」を育成する。	企業等の現場で必要となる「基礎力」は暗記ではなく体得するものであるということに、生徒自ら“気づく”ように努める。	3. 8	3. 5 (-0. 1)	実習を通しての体得を重視し、学生自らが気づきを得られるように努めている。
		本校の卒業生を含め、企業等で活躍している人に授業や講演等を行ってもらい、より実践的な「基礎力」を育成できるよう努める。	3. 4	3. 5 (-0. 1)	和食・イタリアンの卒業生である3名の調理実習講師を含め、現場の料理長やオーナーシェフの実習指導などを通して、より実践的な基礎力の育成を行っている。今年度は調理実習講師を4名増員した

評価項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
			前期	年度末	
生活指導	全教職員で礼儀指導を行う。また、問題行動の予防に努める。	挨拶・礼儀及び容儀等の指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせるよう努める。	4.0	3.8 (-0.2)	HRや実習を通して、挨拶・礼儀については、その大切さの指導を徹底している。
		悩みを抱える学生の早期発見に努め、適切な教育相談を行い、問題行動等を未然に防ぐよう努める。	3.2	3.2 (+0.2)	系列校の長崎国際大学からカウンセラーの専門家に週1回来校してもらい、相談体制を整え、きめ細かな対応を行っている。1・2年合同の授業など、2年から1年へのアドバイスなど工夫をしている。
進路指導	面談や適性検査等を実施して、学生の希望にマッチングした適切なキャリアサポートを行う。面接等に必要自己表現力の育成に努める。	入学後の早い時期に、進路意識の調査・把握をし、就職への動機づけを高めるための個別面談や指導に努める。	3.0	3.0 (+0.4)	学生数が少ないこともあり、日常の会話の中で進路指導を行っている
		就職指導においては、企業毎の人材ニーズ等を踏まえ、具体的かつ分かりやすいアドバイスに努める。	3.4	3.3 (-0.1)	求人票の照会や講師からの情報提供など就職支援を行っている。2年次のインターンシップが就職先に繋がるケースもある。
		面接試験に対応するため、HR活動等を通して、自らの考えを整理し表現できる力の育成に努める。	3.4	3.3 (±0)	学生レストランでの反省会では担当者の発表の場を設定している。就職試験に向けての面接指導も行っている。
		家庭との連携・協力に加え、挨拶・5S運動(躰・整理・整頓・清掃・清潔)やボランティア活動など、豊かな人間を育む教育に努める。	3.4	3.5 (-0.1)	5S運動に関する指導は徹底して指導を行っている。地域清掃活動を歯科衛生士学院と連携して実施している。
		資格取得の指導を徹底し、就職率の向上に努める。	調理師免許と専門調理師技術考査取得100%を目指す。	4.0	3.5 (-0.1)
	企業訪問を実施し、就職の門戸を拡大し、学生の希望に沿った企業への就職率100%を目指す。	3.0	3.2 (±0)	インターンシップ時の実習先訪問を含め、学生の希望分野に沿った就職活動の支援を行っている。	
社会人基礎力	思考力や創造力を伸ばし、物事に主体的に取り組む力や実行力の育成を図る。	現状を分析し、目的や課題を明確にすることにより、課題解決のプロセスを作成することができる能力を育成する。	3.4	3.7 (-0.1)	学生レストランでは反省会で課題等を出し合い、次回開催に反映させている。食楽論やホスピタリティ概論などの講義でも問題解決能力に関する内容が実施されている。
		自ら目標を設定し、周囲の協力を得ながら、失敗を恐れず、ねばり強く取り組むことができる能力を育成する。	3.6	3.5 (-0.1)	失敗を恐れたり恥ずかしがったりする学生もいるが、実習など達成感を体験させるなど、自身を持たせる指導を粘り強く行っている。

評価項目	目標	具体的方策	評価		成果と課題
			前期	年度末	
社会人基礎力	コミュニケーション能力を身につけさせ、チームで働く力の育成に努める。	自分の意見を分かりやすく伝える発信力や意見を丁寧に聞く傾聴力と意見や立場の違いを理解できる能力を育成する。	3. 4	3. 3 (-0. 1)	HRや学生レストランでの反省会・ホスピタリティ概論・食楽論等で発表の場を設け、発信力や傾聴力の育成に繋げている。
		社会のルールを守ることの大切さや、ストレスへの対応方法などセルフコントロール力を育成する。	3. 6	3. 3 (-0. 1)	ルールを守ることの大切さや時間厳守の指導や調理師としての自己管理を徹底させている。
組織運営	経営方針・努力目標に沿って、その実践に努める。 来年度に向けて一般課程（1年制）から専門課程（2年制）への移行を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを含め、経営方針・努力目標を全職員が共有し、教育実践に努める。	3. 4	3. 5 (-0. 3)	年度始めの会で中期ビジョン・事業計画等の資料を配付し、周知を図っている。今年度は次期5カ年中期計画の作成を行った。
		教員間の授業研究を行い、授業内容を相互評価し、教員の専門性や指導力の向上に努める。	2. 8	2. 7 (-0. 1)	実習については、可能な限り事前打ち合わせを行っているが、校外での職員研修が実施できないことが課題である
		学校自己評価を年2回実施し、ホームページ等で発信する。	3. 4	3. 3 (-0. 1)	昨年度分はHPで公表している。
		専門課程2年制変更後の内容の見直しなどを含め新教育課程への対応を行う。	3. 8	3. 5 (-0. 1)	実習講師を増員し指導の幅を広げるなど、
	定員の確保に向けて学生募集に努める。	高校訪問や進路ガイダンス・ホームページ等を活用し、教育内容や在校生・卒業生の状況説明や学校のPRに努める。	4. 0	3. 0 (±0)	Instagramを活用しての情報発信や高校ガイダンスでは体験授業、高校への出前授業や体験入学の受入やなどでPRを行っているが、学生募集に繋がっていない。
		受験生や保護者に分かりやすい募集要項（学校案内）を作成し、高校訪問・オープンキャンパス・進路ガイダンスに活用する。	3. 6	3. 5 (-0. 1)	オープンキャンパスでは学生中心の説明や質疑応答などなど、分かりやすく伝えるように心掛けている。4月からの学生サポート制度開始の周知徹底が課題である。
	施設・設備の有効な活用と安全点検等の管理を適切に行う。	教育活動や指導は、常に安全を優先して行い、施設・設備の安全点検は月1回以上行う。	3. 6	3. 5 (-0. 1)	施設・設備については、築15年を経過したことから、メンテナンスも含め早めの対応を行っている。今年度はコロナ対応でオンラインシステム対応を行った。
		日頃から、環境整備を心掛け、省エネ運動を推進し、水道使用量や電気使用量を前年比5%減に努める。	4. 0	3. 7 (-0. 1)	省エネに関しては徹底している。5%については、これまでも節電等を行っていることもあり厳しい状況にある。
		パソコンによる学生情報等の管理と校務処理を推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業に努める。	3. 8	3. 5 (-0. 1)	成績処理・管理等、適性に行っている。来年度に向けて情報セキュリティーポリシーの作成を学校法人として行った。